

重たい小銭入れ

ぶぎん地域経済研究所 主任研究員 鈴木 源柱

現金払い

昔から、支払いは“いつもニコニコ現金払い”をモットーにしているの、財布は札入れと小銭入れの二つを持っている。1989年の消費税導入後は、ますます小銭入れの役割は中身同様に重くなった。買い物の際には二つを同時に出して支払うのだが、時には小銭入れから端数の1円玉や5円玉を出すのが面倒になることもあり、お札だけを出してお釣りはそのまま小銭入れに仕舞うこともある。

それでも最近、コンビニエンスストアのポイントカードを持つようになったので、少しは小銭を出す機会は減った。店員が「端数をポイントで使いますか？」と聞いてくれるので、その時は素直に「はい」と答え、端数の金額をポイントから引いてもらっている。これはなかなか便利で煩わしさがなく、店側もレジの小銭を切らす心配が減るので、双方にとってありがたいことだ。

小銭の存在価値

いよいよ来年4月から消費税率が現在の5%から8%に引き上げられる。消費税込105円だった商品が108円になるわけで、現金で支払う場面では1円玉の出番が今以上に増えることになる。おまけに税込108円の品物を買って1000円札で支払うと、お釣りが最低でも500円玉1枚と、100円玉が3枚、そして50円玉1枚に10円玉が4枚、1円玉も2枚となり、合わせて11枚もの小銭が戻ってくる。すると小銭入れの中は、ジャラジャラといっぱいになってしまい、とんでもないことになる。

消費税率8%のおかげで、ますます小銭の存在価値が高まるはずだが、財務省によるとこの数年1円玉は製造されていないという。2011年から記念用の貨幣セットを除いて、流通用の製造はゼロの年が続いている。背景には電子マネーの普及やクレジットカードでの支払いなどで、1円玉の使用が減ったためようだ。何よりも、アルミニウムの1円玉を製造するには、その倍のコストがかかると言われ、日本の財政を考えると製造しなければならないほど楽になる。

1円玉見る機会激減

1円玉の製造がゼロの状態が続いていても、さて来年4月からはどうなるのだろうか。個人的には小銭を使う場面が多くなるが、世間一般的には電子マネーやクレジットカードなどを使う人が多くなればなるほど、小銭を持ち歩く必要がなくなるわけで、1円玉や5円玉の登場場面は減ることになる。これが8%から10%への税率引き上げの時には、さらに1円玉の役割は薄れることになり、支払いの場面で1円玉を見る機会が激減するかもしれない。

電子マネーやクレジットカードを使わず、“いつもニコニコ現金払い”をモットーにしている身にとっては、消費税率が引き上げられても相変わらず札入れと、重たくなった小銭入れの二つを持ち歩いているのだろう。来年4月から買い物の際には、今まで以上に小銭入れも気分も重たくなる。

(本稿は埼玉新聞11月8日に掲載したものです)